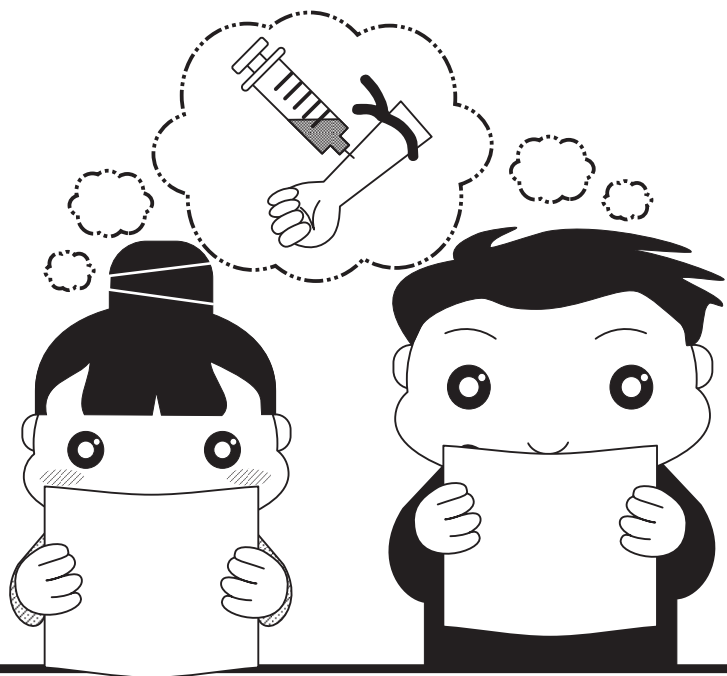


検査値を知ろう①



宣言
明るい笑顔
すぐ返事
伝える元気

かちどき薬品 ホームページ
げんき君 健康に関する情報がいっぱい
<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ

検査値を知ろう



健康診断や人間ドックなどで受ける検査では、いったい何を調べているのでしょうか。今回は血液検査でわかる項目を中心にをご紹介します。



◎ご注意◎

- 現在、医療機関を受診されている方は、かかりつけの医師の指示に従ってください。
- 基準値は検査機関によって異なることがあります。
- 基準値は健康かどうかを示す目安であり、病気を診断する診断基準値とは異なります。



血糖値を知る検査

「血糖値」は血液1dl中のブドウ糖の量を示すものです。血糖値は食事を摂ることで変動しますが、「インスリン」というホルモンにより一定の範囲内にコントロールされています。血糖値が慢性的に高い場合には糖尿病が疑われます。

・空腹時血糖

	検査値(mg/dl)	疑われる病気や原因
高↑	126以上	糖尿病
	100~125	
基準値 65~99		
低↓	基準値下限未満	インスリンノーマ

<この検査でわかること>

最も血糖値が安定している空腹時に調べます。126mg/dl以上の数値が出た場合には、「糖尿病」かどうかを確かめる必要があります。

・ヘモグロビンA_{1c} (NGSP)

重要 2012年4月1日より、ヘモグロビンA_{1c}の値は国際標準化され、NGSP値が採用されます

	検査値(%)	疑われる病気や原因
高↑	6.9以上	糖尿病
	5.6~6.8	
基準値 4.6~5.5		
低↓	基準値下限未満	溶血、肝硬変

<この検査でわかること>

赤血球の成分である「ヘモグロビン」の中で、「ヘモグロビンA_{1c}」が占める割合を調べます。これは検査前の1~2ヶ月間の平均血糖値がわかります。

血中脂質を知る検査

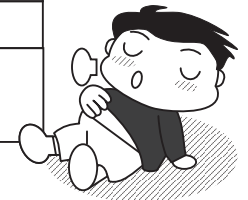
血中脂質は「中性脂肪」と「コレステロール」の2つに大別できます。生活習慣の乱れなどにより基準値を外れると「脂質異常症」と診断されます。

・中性脂肪

	検査値(mg/dl)	疑われる病気や原因
高↑	400以上	家族性脂質異常症・肥満・糖尿病
	150~399	
基準値 30~149		
低↓	29以下	低βリポたんぱく血症・肝臓障害・低栄養

<この検査でわかること>

中性脂肪値が高いと心筋梗塞や脳梗塞など動脈硬化が原因となる病気が起こりやすくなります。

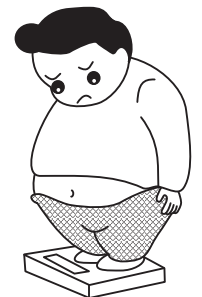


・コレステロール

LDL(悪玉)コレステロール		HDL(善玉)コレステロール		
	検査値(mg/dl)	疑われる病気や原因	検査値(mg/dl)	疑われる病気や原因
高↑	180以上	脂質異常症・糖尿病・甲状腺機能低下症・家族性脂質異常症	基準値 40以上	
	120~179		35~39	糖尿病・喫煙・運動不足・肥満
基準値 70~119		34未満		
低↓	基準値下限未満	吸収障害・低βリポたんぱく血症・肝臓障害		

<この検査でわかること>

どちらか一方でも基準値から外れると、脂質異常症と診断されます。



尿酸値の検査

尿酸値とは、血液中の尿酸の量を示すもので、尿酸とは、「プリン体」が分解・代謝されてできる老廃物です。通常、尿酸は尿中に送り出されて排泄され、一定の範囲内にコントロールされていますが、生活習慣の乱れなどにより尿酸が増えすぎると、体内で結晶化し、通風発作を起こします。

高い尿酸値は通風発作の指標となるだけでなく、「動脈硬化」が進みやすい状態ともされており、基準値を超えた場合には注意が必要です。

・尿酸

検査値(mg/dl)	疑われる病気や原因
9.0以上	痛風・高尿酸血症
7.1~8.9	
基準値 { 男性 3.1~7.0 女性 2.2~5.4	
基準値下限未満	腎性低尿酸血症

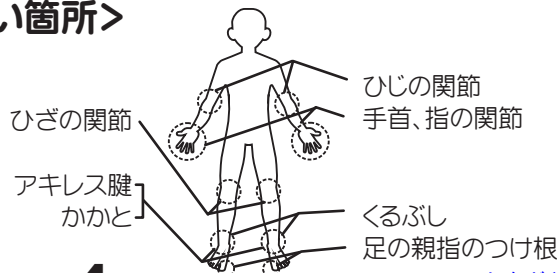


<この検査でわかること>

尿酸値が7.0mg/dlを超えると尿酸の結晶化が始まるため、高尿酸血症と診断されます。

<痛風の起こりやすい箇所>

結晶化した尿酸が関節などに沈着し痛みが起こります。



肝臓の状態をみる検査

肝臓は“生体の化学工場”と言われるほど多岐にわたる機能をもつため、肝臓の状態を調べる検査も数多くあります。肝臓は“沈黙の臓器”と呼ばれるほど、自覚症状が出にくい臓器です。検査で定期的に状態をチェックすることが大切です。

AST(GOT)・ALT(GPT)

検査値(IU/dl)	疑われる病気や原因
AST 70 以上 ALT 100 以上	急性肝炎・慢性肝炎・ 肝硬変・脂肪肝・ 肝臓がん・ アルコール性肝炎
AST 31~69 ALT 31~99	
基準値 { AST 30以下 ALT 30以下	

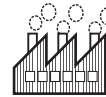
高↑

<この検査でわかること>

AST、ALTともに臓器や組織に障害が発生すると血液中に増加します。
AST、ALTがともに高ければ、肝臓病が疑われます。

<肝臓の主な働き>

有害物質の分解



エネルギーの
貯蔵・合成



油を消化しやすくする
胆汁の分泌

•ALP

	検査値(IU/ℓ)	疑われる病気や原因
高↑	上限の1.5倍以上	肝臓障害・骨疾患・がん・ 甲状腺機能亢進症
	上限~その1.5倍未満	
基準値 96~300 (測定機関によって変動する)		
低↓	基準値下限未満	亜鉛欠乏・遺伝(おおむね問題なし)

<この検査でわかること>

ALP(肝臓の胆管などで作られる酵素の1つ)の血中量を調べます。

ALPが高いと肝機能の低下や胆汁の流れの不具合などが疑われます。

ガンマ •γ-GTP

	検査値(IU/ℓ)	疑われる病気や原因
高↑	100 以上	アルコール性肝障害・慢性肝炎・ 胆汁うっ滞・薬剤性肝障害
	51~99	
基準値 50以下		

<この検査でわかること>

γ-GTPは肝臓内の胆管でつくられ、肝臓の解毒作用に関係しています。γ-GTPが高い場合にはアルコール性肝障害や胆汁が流れる経路の異常が疑われます。

貧血の検査

ヘモグロビンは赤血球に含まれる成分で、酸素と結びつき、全身に酸素を運ぶ役割があります。血液中のヘモグロビン濃度が低下した状態を「貧血」といい、その中でも最も多いのが「鉄欠乏性貧血」です。

これは、ヘモグロビンの材料である鉄が足りないためにヘモグロビン濃度が低下して起こります。

•ヘモグロビン濃度

	検査値(g/dℓ)	疑われる病気や原因
高↑	男性 18.0 以上	真性多血症・ 赤血球増加症
	女性 16.0 以上	
	男性 16.7~17.9	
	女性 14.7~15.9	
基準値 { 男性 13.1~16.6 女性 12.1~14.6		
低↓	男性 12.0~13.0	貧血・出血・腎不全 など
	女性 10.0~12.0	
	男性 11.9 以下	
	女性 9.9 以下	



<この検査でわかること>

基準値より低ければ、貧血と診断されます。女性は月経や妊娠などによって低くなりやすいため男性よりも基準値が低く設定されています。